



三菱ガス化学株式会社

平成 19 年 10 月 2 日

メタキシレン製造設備の新設について

三菱ガス化学株式会社（本社：東京都千代田区、社長：酒井和夫）は、水島工場（岡山県倉敷市）において、メタキシレン（以下「MX」という）製造能力を増強することを決定いたしました。水島工場のキシレンコンプレックス内に年産7万トンの新設備を建設し、2009年秋の商業運転開始を目指します。

当社は現時点で水島工場に年産15万トンのMX製造装置を保有する世界最大のMXメーカーですが、今回の増強によりMX系事業の基盤を一層強化いたします。

当社は、混合キシレンの分離・異性化により得られるキシレン異性体及びそれらの誘導品を中心としてキシレン事業を展開しておりますが、この中で当社が独自性を有するMX、及びメタキシレンジアミン（以下「MXDA」という）や高純度イソフタル酸などのMX誘導品をコア事業として強化・拡充することを事業方針としております。

MXDAは、MXナイロンの原料向け自消やエポキシ樹脂硬化剤用途として、高純度イソフタル酸は主にPETボトル向け添加剤として使用されております。何れも近年需要が大きく伸びていることから、子会社のエイ・ジイ・インタナショナルケミカル株式会社で高純度イソフタル酸の10万トン設備の建設を進めているほか、当社水島工場ではMXDAの2万トン設備を完工し、現在商業運転の準備中であります。

このような誘導品の生産能力の拡大に対応するため、当社は既存設備のボトルネック解消によってMXの生産能力を年産12万トンから15万トンに増強してきましたが、誘導品の伸びによりMXの需要は今後更に増加することが見込まれることから、今回の設備新設を決定したものです。

当社のMX誘導品であるMXナイロンは既に米国で生産を行っておりますが、今後はMXDAや高純度イソフタル酸、更にはMXについても海外生産も視野に入れ、MX系事業の更なるグローバル展開に注力してまいります。

< 本件に関するお問い合わせ先 >

広報IR部 西村

TEL.03-3283-5041